

# ともしび



## 坊守式を受けて

井上 明寿子  
(釋妙寿)

一月二十三日〜二十四日の二日間、ご本山へ坊守式を受けに行ってきました。坊守式とは、研修や話し合いを通して学びと交流を深め、坊守としての心構えを仏前で誓約する儀式です。

二人の子どもを家に置いて宿泊するのは初めてのことだったのですが、最初は落ち着かなかったのですが、九十名近い女性たちの中には同じ環境の方もたくさんいて気持ち引き締まり、自然と講義に集中することができました。

研修は、専門の先生方による「念仏者の生き方」「仏事作法」「接遇対応」「坊守の育成体系」「話し合い法座」と盛りだくさんです。

ひとつひとつの授業が深く濃密なため、休憩時間には確認や質問が飛び交い、話し合い法座でも時間が足りなくなるグループの方が多かったです。

充実した時間の中で、印象に残った内容のひとつが「念仏者の生き方とは、自身を振り返るとともに常に仏さまのことを思っ

て生きていること」という先生のお言葉でした。

み教えの基本ですが、この当り前を底上げすることの難しさを私たちはよく知っていて、それを忘れたり見ないふりをする日常にどっぷりと浸かっています。

自分自身が救いの原点にいるのだと気づかない限り、これからは迷いと欲の世界にとらわれ続けるのは間違いありません。

今、私たちが何をよりどころにしているのか、そのよりどころ自体が迷いなのではないか、丁寧に見直さなければならぬと思えました。

宿泊は開法会館の四人部屋でした。ご本山の意向で、離れた地域の組み合わせとなり、私は滋賀福岡、鳥取の方と同じ部屋になりました。

食事や入浴も一緒なので自然と仲良くなり、寝る前には名産品や方言の話がたくさん出ました。

茨城のイメージを皆さんに聞いてみると「納豆と干し芋」だそう

でしたが、私も鳥取は砂丘とらつきようしか思いつかず、お互いの失礼に笑って皆で連絡先を交換しました。

二日目は晨朝勤行と帰敬式から始まり、その後は全員で仏教讃歌を練習しました。「坊守式では皆さん声がとても小さくなります。なぜか必ず小さくなります。なので、精一杯歌ってください」と先生に言われ、音楽礼拝では一生懸命声を出し、途中で声がひっくり返ってしまいました。

礼拝を終えて正信偈を称え、しんとした御影堂で誓いを唱和したときは、全員の声と言葉の意味がゆっくりと心に染みわたるよう響いて、とても感動しました。

ご門主からは、喜びと心得のお言葉をいただき、私も気持ちを新たに、無事に坊守式を終えました。

その後は鶴の間でお祝い膳をいただき、書院を拝観して閉会となりました。

坊守式は一度限りですが、このような機会を望む声が多いため、今年もう一度研修会を開催することです。二日間では足りないと思っていた私には、とてもありがたいお話でした。

また、今後は寺院経営や法話の研修も増やす予定とのこと、全員から大きな拍手が送られました。私もご本山の姿勢にきちんと応えなくてはいけないと思います。

学ぶこと、振り返ることがたくさんありますが、まずはこの坊守式という貴重なご縁をいただいたことに感謝いたします。 合掌

## 永代経にむけて



井上 直之  
(釋直道)

先日、三国橋を渡ると浅間山、赤城山がとてきれいに見えました。以前は私の車に乗った祖母と一緒によく見ていた景色です。最近では三国橋を通ると、私の娘たちが指をさして山の名前を言います。

気づけば今年姉妹は五歳と三歳になり、そして祖母の三回忌があります。月日が経つのはあっという間だと感じております。

さて、先月の二月二日には宗願寺の壮年会のメンバーで築地本願寺で開催された「東京教区仏教壮年会結成四十周年記念大会」に参加してまいりました。

お寺の未来について話し合うパネルディスカッションが行われ、僧侶も門徒もともに深く考えさせられる貴重な時間をいただきました。

そして、次回四十一回目の記念日研修会は、来年茨城県で開催されるので、私たちの壮年会が担当となり、とても忙しくなります。

ただ、壮年会のメンバーはとても協力的で、大変有難く、心強い限りです。来年の大会成功へ向けて全力を尽くしてまいります。

話は変わりますが、私は現在少年院の講師(教誨師)をしており、そこである先生からこんなお話をいただきました。

私たちの先祖の数は百年前なら約十六人、三百年前なら約四百人、宗願寺が誕生した八百年前なら四十二億人、千年前ならなんと一兆人になるようです。

誰ひとり欠けてもこの私というの存在してはなかったと考えると、このいのちはどんなに尊いか、というお話でした。

仏教には諸法無我という、すべてのものは因果関係によって成り立っていて、他と関係なしに独立して存在するものなどない、という真理があります。

世の中のあらゆるものは、すべてがお互いに影響を与えあって存在しています。ですから、すべてのご縁の中に私たちは今ここに生かされているのです。

永代経はそんな私たちの「ご縁」を深く見つめ直す大切な日となることでしょう。皆さまの参り、心よりお待ちしております。

## お知らせ

花まつり

4月5日(日) 午前11時

宗祖降誕会

4月29日(水) 午前11時

あじさい忌

6月23日(火) 午前11時

全戦没者追悼法要

8月15日(土) 午後6時

恵信尼公法要と敬老会

9月16日(水) 午前11時

# 忘れられない お別れに



釋 由 真

二月四日、恒例の立春拝賀式の日、悲しいお別れがありました。前住職と六十年近くの間友人関係とともにコーラスを楽しみ、お寺の行事には必ず参加して下さっていた溝口玲子さんが急逝されました。

私の編物教室でも大活躍。成道会バザーの品のうち、セーター等の大きな作品はほとんど溝口さんが編まれたものでした。

一月二十八日の教室でも笑顔で楽しく一緒にしました。残されたお仲間は大変驚くばかりでした。

いただいた年賀状には「今年も編物楽しみです。お昼のご馳走も楽しみです。元気でいなくてとは思いません。」とありました。

同じ日、母のかわいがっていた猫の要(かなめ)も急死しました。心臓を病んでいましたが、前の晩も一緒に寝て、私に甘えていたのに……と、寂しい気持ちです。

二月二日には仏婦の前々会長、福田幸子さんが往生されました。平成十七年十月、茨城西組の仏婦と寺族女性合同の結成十周年記念行事で恵信尼廟を参拝しました。

福田さんの調声でお勤めし、誇らしかったことを思い出したことです。それぞれの別れを悲しみつつ、自分の気持ちをどう整えようかと考えていました。

父の死後、母がよりどころに

していたという言葉をここに記します。

人は去っても  
その人の微笑みは消えない

人は去っても  
その人の声は聞こえる

人は去っても  
その人のぬくもりが残る

その人は  
拝む掌の中に帰ってくる

目には見えないけれど、今ここにともにいる、そう感じることはありません。「拝む掌の中に帰ってくる」本当にそうだなあ、と合掌、お念仏申しながら、自分を励ましていきます。

## 「音御堂」は十一月十六日

住職が大合唱を指揮するご本山での「音御堂」の日程が決まりました。

大谷本廟での納骨を予定されているご門徒さんと一緒に聞かせていただけたら、と、京都旅行の計画を立てたいと思っています。

母が元気だった頃は、毎年のように春の桜と秋の紅葉の季節にご門徒の皆さん方と納骨の旅をしていました。

その母が倒れ、なかなかそのような旅はできずにいましたので、「音御堂」をご縁に考えたいと思います。

希望される方は、副住職までご連絡ください。

## 仏教壮年会

第2土曜日 午後6時

## 仏教婦人会

16日 午後1時

## 編物教室

第2・第4火曜日 午前10時

## 宗願寺合唱団の練習

第3日曜日 午後1時半

## 彩弥と弥那との日々



彩弥(左) 弥那(右)

またお互いが選んだものが気になるようで、座席やおもちゃの取り合いが激しくなりました。そんなときは、私もきつく叱ってしまっているのですが、二人を観察しているうちに、眩しいほどの感性と自我の成長を感じています。親としてできるのはわずかなことで、しかも自分が間違っていることもたくさんあります。正しい生き方を目指しながら子どもを導くのは容易ではないかもしれませんが、子どもが気づかせてくれる大切なことをひとつひとつ見落とさないよう、日々を積み重ねていけたらと思います。

(明寿子 記)

## 宗願寺ウェブサイトの開設のお知らせ

### 開設のお知らせ

この度、宗願寺のホームページを公開いたしました。今のところ内容の希薄さは否めませんが、今後皆さまのご意見・ご要望等を取り入れながら、門信徒の皆さまへの利便性の提供はもとより、宗願寺の魅力、浄土真宗、仏教の尊さをお寺の内外に発信していければと思っています。

ぜひ一度、パソコンやスマートフォン等でアクセスしてみてください。

宗願寺仏教壮年会

稲葉 清



宗願寺ウェブサイトURL  
<https://souganji.com/>

## 編集後記



新型コロナウイルス騒ぎが収まりません。永代経当日にはどうなっていることやら、お寺の行事は今のところ予定通りに勤めています。

今回の寺報の紙面から、宗願寺の若返りを感じていただけただけ嬉しいと思います。

昨秋、坊守がご法事デビューしました。住職は東京、私はお寺、坊守は上大野、それぞれ別の場所でお勤めさせていただきました。「つなぐ」ために、三人力を合わせて頑張っています。温かくお見守りください。

二月二十一日には、このお寺に初めて女性の布教使さんが来てご法話をしてくださることになっています。

茨城西組の仏婦と寺族女性と一緒に学ぶ研修会です。どのような研修会になるか、楽しみです。

ホームページ開設もそうですが、新しいことにも挑戦しつつ、古き良きものは守り、亡き父母の声にも耳を傾けながら、毎日を忙しく過ごしています。

そして、「ねね、ケーキ食べたいから作って！」という彩弥と弥那の声がいちばん嬉しいのです。

合掌



発行・宗願寺門信徒会  
編集責任者・井上由真  
(由美子)  
カット・大建弘子  
(印刷所・阿部印刷)